

国鉄年金掛金20%アップ 攻撃を許すな!

日刊 勤労千葉

80.12.23
No. 614

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)三三三二七二〇七

十二月十八日、国鉄総裁の諮問機関である、国鉄共済組合収支計画策定審議会(会長・今井一男共済組合連盟会長)は、国鉄共済保険率を来年四月以降現行の一四・七%から一七・七%にアップすることを答申しました。この答申をうけて、来年二月、国鉄共済運営委員会が正式決定を諮らうとしています。

年金財政赤字の真因

国鉄共済年金財政の収支状況は、一九七〇年度を境に赤字となり、一九七六年から一二・七%、一九七八年から一四・七%へと二度にわたって共済掛金の引き上げを実施したにもかかわらず、これによる収支改善はいずれも短期間に限られ、一九八〇年度は、四五四億円の収入に対し一八五億円の赤字が見込まれ、ますます悪化する状態にあり、現行のまま推移すれば一九八三年には積立金も底をつくという事態にあります。

この年金財政悪化の原因は、第一に戦中戦後の「国策」遂行として大量採用した要員構成の歪みにより、毎年大量の新規年金受給者が発生していること、第二に合理化により職員数が減少していることです。

こうした状況は、現行制度に手を加えることなく、収支状況を保険料率アップ組合員の負担増をもって乗り切ろうとしても到底不可能なものなのです。

現在でも保険料率は、各共済組合の中で国鉄が一番高く、国家公務員の一・四四倍、厚生年金の一・六七倍にもなっているのです。

このような国鉄共済年金の抜本的財政安定化方策として、本年五月三〇日、「国鉄共済組合年金財政安定化のための研究会」(座長・船後中小企業金融公庫総裁)は、「国家公務員及び公企体職員グループの共済年金制度の統合・一元化」を答申しています。

この統合・一元化とは、「国鉄共済組合の運営を、電電、専売や国家公務員など他の共済組合と一本化し、負担の不均衡をなくす」という主旨で出されたものです。しかし、統合・一元化は、①法改正、②各企業間不均衡(掛金・年金受給者の職員数との割合)等と多くの問題点があり、国鉄共済事務局では、この統合・一元化のメドを一九八四年度とし見込んでいます。

この統合・一元化までのツナギの年金対策と称して出されたのが、今回の「国鉄共済組合収支計

画策定審議会」による来年四月以降の保険料率二〇%アップの答申案なのです。

35万人体制粉碎と結合した闘いを!

この答申内容は、組合員の毎月の掛金を現行、基本給一人平均二〇万円で計算すると六・一五%(一二三〇〇円)を七・四%(一四八〇〇円)にアップさせるというものです。同時に、国鉄当局の負担率も現行八・五五%を一〇・三%にアップするという内容になっています。

これは、国家公務員共済一二・二五%、電電共済一四・四%と比べて、国鉄共済のみが一番高い掛金を負担するというものであり、組合員の負担能力の限界を越すものであり到底容認できません。

しかも一方では、国鉄当局は一九八五年度までに三十五万人体制合理化攻撃をもって七万四千人の要員を削減し、職員一人に対し年金受給者を一・四人の割合にするという滅茶苦茶な攻撃をもって、自らが共済年金財政破綻を推進しているのです。

今こそ、35万人体制合理化を撤回させ、組合員の負担限度を超えた値上げをさせないという立場からの国鉄労働者一体となった闘いが必要なのです。

あなたの愛車に **カナメ商事**

「日動火災のエコノミー車両保険」を!

- ベテランドライバーのあなたにおすすめます。運転に自信のあるベテランドライバーの方でも、交差点での出合頭の衝突など避けられない他車との衝突事故は起こります。この様な場合に愛車の損害についてお支払いする保険です。
- 安い保険料が魅力 一般の車両保険に比べ保険料は半分以下と格段に安いことがこの保険の特徴です。
- 迅速な事故解決が図れます。自家用自動車保険(PAP)とセットしますので、万一事故の際には、対人・対物の示談交渉と合わせて包括的な処理をすすめますから、迅速な解決が図れます。
- 今からでもすぐ契約できます。現在ご契約中の自家用自動車保険(PAP)に中途からでもご契約いただけます。